

特集 登別らしさって なんだろう

第2回全国大学政策フォーラム in 登別

8月30日(木)から9月1日(土)までの3日間、自治体政策などを学ぶ大学生・大学院生が登別市に集い、市民との交流やフィールドワークを通してまちづくりの実態を学び、自治体政策についての提言とフォーラムを行う『第2回全国大学政策フォーラム in 登別』が開かれました。

今月号では、その内容についてお知らせします。



全国大学政策フォーラムとは

少子高齢社会を迎え、多様化する住民ニーズに的確に対応するためには、多くの方が知恵を出し合い、より良い政策を創りだしていく必要があります。

このため、自治体では政策形成能力や政策法務能力など政策にかかわる能力の向上が求められています。

一方、全国の大学では、こうした社会の要請に応えるため、政策系大学院や学部などが年々増加する傾向にあります。

しかし、これまで学生たちが現実の社会で、現場の実情を検証して政策提言を行う機会はほとんどありませんでした。

そのため、昨年、同志社大学をはじめとする全国の大学や登別市議会、登別商工会議所、登別観光協会、登別市などが実行委員会を組織し、登別市を会場に政策の論議を行う『全国大学政策フォーラム』が開催されました。

昨年の同フォーラムは、『登別市の観光政策を考える』をテーマに開催され、「市民活動団体に『観光によるまちづくり』をコンセプトに活動していたら」といった提言や「温泉という資源があってもそれ以外のものが生かされていない」といった登別市の観光の問題点などが発表されました。

登別発見の旅が始まる

今年の同フォーラムには、岩手県立大学、立教大学、日本大学、同志社大学から学生58人、10グループと市職員若手4人で構成する1グループが参加し、『登別らしさを政策に『のぼりべつ発見の旅』をテーマに行われました。

1日目は、婦人センターで市観光経済部次長が『登別市の観光振興について』をテーマに観光客の入り込みの推移や取り組んでいるイベントなど、市の観光の現状を説明。その後、市内一円をバスで視察し、夜には交流会が開かれました。

2日目は、市役所本庁舎を基点に、グループ提言の資料収集のため、市職員やホテル・旅館経営者などにインタビューをしたほか、観光地や商店街などを視察しました。

3日目は、各グループが政策提言を行ったほか、入賞したグループの代表など5人をパネリストにフォーラムが行われました。

たくさんアイディアが出されたグループ提言

各グループの提言では、学生が『のぼりべつ』を旅して発見した『登別らしさ』や学生ならではのユニークな提言などが数多くありました。それでは、グループ提言とフォーラムの内容の一部を紹介します。